

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	教授 後藤敏文	1学期	火	5
◆ 講義題目	リグヴェーダ選				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献『リグヴェーダ』の研究。今学期はⅣ巻を取り上げ、早く読む訓練をする。Geldner, Grassmann, Mayrhofer, AiG はじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業時に示される能力による。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	教授 後藤敏文	2学期	火	5
◆ 講義題目	リグヴェーダ選				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献『リグヴェーダ』の研究。引き続きⅣ巻を取り上げ、早く読みすすむ。Geldner, Grassmann, Mayrhofer, AiG はじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と学習成果とによる。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 III	2	准教授 吉水清孝	2学期	火	4
◆ 講義題目	伝統的文法学研究				
◆ 到達目標	専門分野を問わずサンスクリット語文献を読むために必要となる、パーニニ文法学の基本的部分の理解を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>パーニニが大成した文法学は、インドでは学問の模範として広く認知され、またインドの論書の多くは基本典籍の註釈書であるため、どの分野の論書も、読者にパーニニ文法学の素養があることを前提している。特に名詞格語尾が意味する「行為の形成要因」(kāraḥ) の理論は、サンスクリット文の構文理解に必要であるのみならず、インド哲学の世界観のありようをも規制しており重要である。今学期は、パーニニ文典の実用的註釈書 Kāśikā の kāraḥ の章、さらに時間のある限り格語尾の章をも講読し、kāraḥ 理論の主要な事項を理解する。テキストは Sanskrit Academy Series 版を用いる。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業での貢献度 [100%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	教授 後藤敏文	1学期	月	4
◆ 講義題目	仏教文学選 Buddhacarita				
◆ 到達目標	古典サンスクリット語文献の成立事情に留意しながら、文献学的・言語学的訓練を行う。仏教とその背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の文学作品の一つといわれる Aśvaghōṣa 作 Buddhacarita を読む。第Ⅲ巻から。毎回出席者全員に順番に訳してもらう。合理的に予習と復習とを心がけること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方とによる。				
◇ 教科書・参考書	Johnston 版を基礎にする。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	教授 後藤 敏文	2学期	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選「祭主の章」				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、基礎知識を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の散文文献と考えられるヤジュルヴェーダ・サンヒターから、祭主の章を取り上げる。前年度のMSに続き、KS、TS等を扱う。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、祭火を巡る思弁を中心に、祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらい、予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück, Mayrhofer を座右に置くこと。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	准教授 吉水 清孝	1学期	火	4
◆ 講義題目	クマーリラ研究				
◆ 到達目標	インド哲学史において独創性と多面性を兼ね備えた思想家として重要なクマーリラ(600年前後)の思索の一面を、彼が参照した種々の文献と対照しながら理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>クマーリラが属するミーマーンサー学派では、叙事詩や法典など、作者名を伴って伝承されてきた聖典（スメリティ）をヴェーダに準ずる権威として認め、叙事詩に登場する英雄や仙人たちを、世間の人々が模範とすべき「善き人」とみなした。けれども彼らは、物語の中で、世間での良識からすると非難されるべき行為に及ぶことがある。今学期は、クマーリラがこのような事例をどう解釈すべきかを考察したTantravārttikaの第1巻第3章内の一論題を取りあげ、彼が考える「良識あるアーリア人の習俗」がいかなるものであったかを考察する。テキストはĀnandāśrama Sanskrit Series 初版本を用いる。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業での貢献度 [100%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I	2	教授 桜井宗信	1学期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めたbSod nams rtse moの代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ %]・( ) リポート [ %]・(○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 II	2	教授 桜井宗信	2学期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前 Semester に引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ %]・( ) リポート [ %]・(○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 Ⅲ	2	非常勤 講師	小 林 守	集中 (1)		
◆ 講義題目	チベット中観思想史					
◆ 到達目標	ツォンカパ中観説の特徴及びサキヤ派によるツォンカパ批判の論点を文献に即して検討し、チベットにおける中観思想の多様な展開を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教史においてツォンカパの出現は時代を画するものであった。以後、彼の学系にあるゲルク派が勢力をえてゆくが、その一方でそれに対抗した人々も少なくなかった。この授業では、特にツォンカパの中観説を批判したサキヤ派論師をとりあげる。チベット中観思想史を概観した上で、いくつかの蔵外文献を読みつつ、ツォンカパ説の独自性を考えゲルク派／サキヤ派の論争の流れを追うことにより、豊かに展開したチベット仏教の側面をあきらかにする。					
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]、出席 [30%]、その他（授業中に示される理解度） [30%]					
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。					
その他： 出席者はチベット語とサンスクリット語の基礎知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 研 究 演 習 Ⅰ	2	教授	桜 井 宗 信	1 学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読					
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。					
◆ 授業内容・目的・方法	Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。 この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるといふインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。					
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) レポート [ % ] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他（授業中に示される理解度） [30%]					
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y. Ejima, 山喜房仏書林。 ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※ 『俱舎論』を読解する際に役立つその他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。					
その他： 「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるといふインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [ % ] ・ <input type="checkbox"/> リポート [ % ] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y. Ejima, 山喜房仏書林.</li> <li>・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用.</li> <li>・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎積論』（真谛訳）.</li> </ul> <p>※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					